

セキュリティ要件定義のためのゴール指向モデリング手法

東芝ソリューション株式会社

斯波 万恵

Shiba.Masue@toshiba-sol.co.jp

開発における問題点

セキュリティの要件定義には以下のような課題があった。

- ・脅威分析工程が重い
- ・セキュリティ機能要件の抽出が難しい
- ・CC Part2 コンポーネントの個々の要件化(操作)が難しい
- ・システムへの要求や機能からセキュリティ要件を決定する手法がない

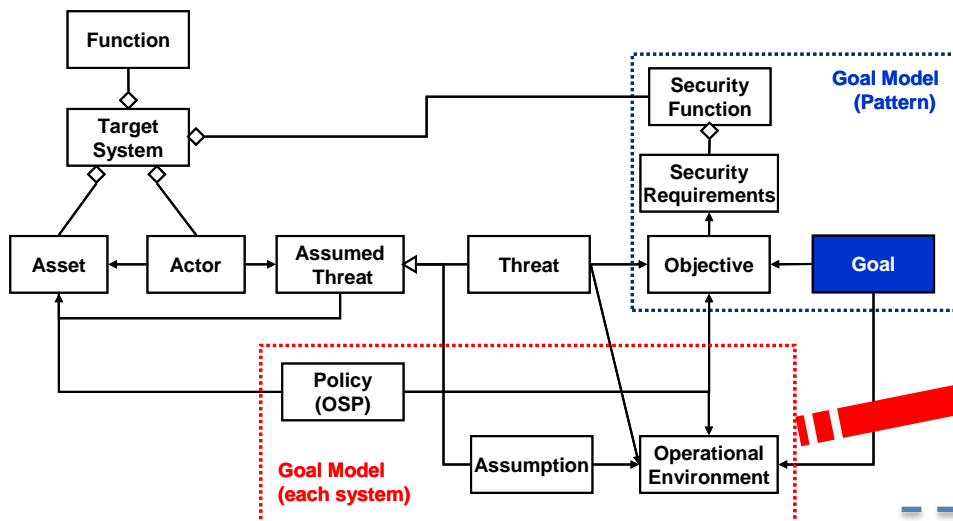
手法・ツールの適用による解決

- ・脅威分析を行わない/システムへの要求による**セキュリティ要件定義モデル**が必要
- ・セキュリティ対策と**機能要件のパターン**が必要
- ・セキュリティ要件定義のための**操作モデル**が必要

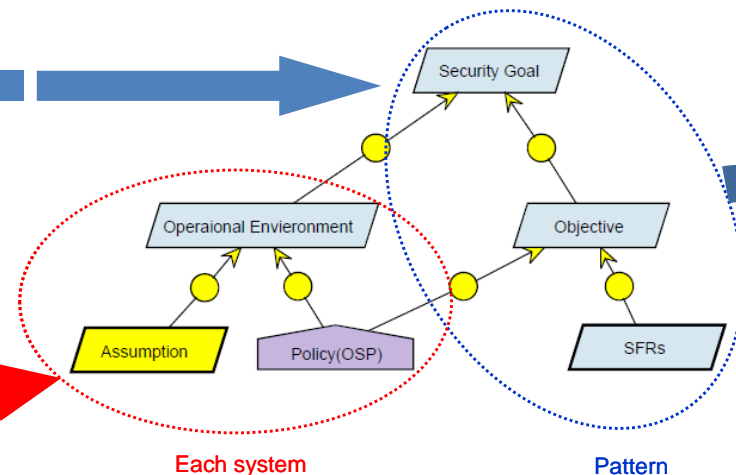
セキュリティ要件定義のメタモデルにゴールを拡張し、KAOSのゴールモデルと操作モデルのオブジェクトにステレオタイプで新しいモデルを与えた。

提案するゴール指向モデル

メタモデル



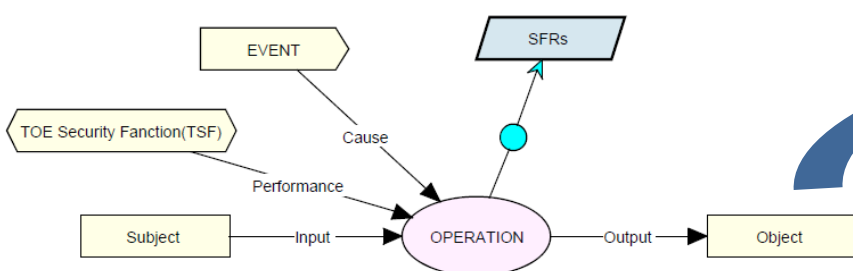
ゴールモデル



セキュリティゴール

- データの機密性
- データの完全性
- データの可用性
- 利用者のプライバシー
- サービスの機密性
- サービスの可用性
- サービスの追跡性

操作モデル



提案モデルの適用例

セキュリティ要件定義ツール

